

特定非営利活動法人 日本免疫学会  
平成 27 年度後期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award  
研究発表報告書

申請者氏名	前田 卓也	会員番号	0033475
申請者の所属・職名	京都大学 再生医科学研究所 再生免疫学分野 大学院生		
出席会議名	CRI-CIMT-EATI-AACR The Inaugural International Cancer Immunotherapy Conference		
発表論文タイトル	Regeneration of tumor antigen specific CTLs utilizing iPSC technology		

実施結果:

私はこの度、米国ニューヨークで開催されましたCRI-CIM-EATI-AACR Inaugural International Cancer Immunotherapy Conference に参加してまいりました。この会は、米国のMemorial Sloan Kettering Cancer Centerが中心となって開催されてきた歴史のある会ですが、本年よりヨーロッパの免疫療法学会と合同開催となりました。

近年がんに対する免疫療法が注目を集めており、今回の学会にも全世界からがん免疫に関わる研究者、医師、企業などが集まり、熱い議論が交わされていました。特にチェックポイント阻害抗体やChimeric Antigen Receptor 導入 T 細胞療法(CAR-T) の臨床試験のデータおよびそこから得られた知見などが多数発表されていました。がん免疫の臨床応用に関しては、我が国は欧米諸国に大きく遅れており、その差を埋めるべくさらなる研究・臨床面での蓄積が必要だと痛感しました。

私は「iPS 細胞技術を用いたがん抗原特異的 T 細胞の再生」についてポスター発表を行いました。がん抗原特異的 T 細胞療法については、現在TCR遺伝子を末梢T細胞に遺伝子導入して輸注するという治療が世界で進められていますが、末梢 T 細胞に遺伝子導入するという方法にさまざまな問題点を含んでいます。我々はそのような問題点を解決すべく、iPS 細胞技術を用いてがん抗原特異的T細胞を完全に *in vitro* で分化培養して治療に用いることを目標に研究をすすめています。このアプローチは世界でもまだあまり研究されていませんが、斬新なアプローチとしていろいろな研究者から興味をもって聞いてもらえました。iPS 細胞をがん免疫療法に利用するという演題は 400 ほどあった演題でもほとんどみられず、我々の研究が世界をリードしていることが分かりました。今後この研究をさらに進め、臨床応用を目標に研績を積みたいと強く感じました。

この度は私をこのような栄誉ある賞に選んでいただき、岸本忠三先生、選考委員の先生方には心から感謝いたします。